

日本以外の多くの国で秋は進級の季節だ。故郷の千葉県を離れ、ハンガリー¹の国立大医学部で学ぶ吉田いづみさん(22)も3年生になった。「患者に寄り添える医師に」と将来を描く。

手術で生まれつきの心臓病を治してもらった経験から、子供の頃から医師を志望してきた。だが日本の医学部は学業優秀でなければ合格できない狭き門。夢を捨てられずに見つけたのが約1万^キ離れた東欧への進学だった。

入試は面接重視。「もし不合格だったら」ときく試験官に「来年も再来年

帳染曼



医師への夢

も受けに来ます」と訴えた。英語中心で進む授業では学年の3分の2が留年、退学する。「入るのは簡単でも卒業は難しい。勉強を入試のためにするか、卒業のためにするかの違い」と吉田さん。「日々覚悟を試されるのは自分に合っている」と食らいついてきた。

日本では「勉強ができる」という理由で医学部に進む人もいる。だが患者が求めるのは、信頼できる専門知識を持ちつつ、気持ちに寄り添ってくれる医師だ。持ち前のたくましさで道を切り開いてほしい。

【高野聡】